



安全データシート

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

JIS Z 7253「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)」に準拠

1: 化学品及び会社情報

製品特定名

製品名 SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

製品番号 MCC-SPR, MCC-SPR19A, MCC-SPR12Y

別名、商品名 "SPR - SUPRCLEAN Nonflammable Flux Remover"

化学品の推奨用途及び使用上の制限

特定された用途 洗浄剤。

推奨されない用途 特定の勧告用途は確認されていない。

安全データシートの供給者の詳細

供給者 MICROCARE ASIA PTE LTD
102E Pasir Panjang Road
Singapore 118529
Phone (65)6271.0182
techsupport@microcare.sg

製造者 MICROCARE CORPORATION
595 John Downey Drive
New Britain, CT 06051
United States of America
CAGE: OATV9
Tel: +1 800-638-0125, +1 860-827-0626
Fax: +1 860-827-8105
techsupport@microcare.com

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 CHEMTREC +1 703-741-5970 (from anywhere in the world)

2: 危険有害性の要約

化学物質又は混合物の区別

物理化学的危険性 エアゾール 区分3 - H229

健康有害性 区分外

環境有害性 水生環境有害性 (長期間) 区分3 - H412

物理化学的危険性 蒸気は空気より重いので、床に沿って移動し容器の底に蓄積するおそれがある。ガスまたは蒸気は呼吸に必要な酸素に置き換わる (窒息剤)。

GHS ラベル要素

注意喚起語 警告

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

| | |
|----------------|---|
| 危険有害性情報 | H229 高压容器：熱すると破裂のおそれ。 H412 長期継続的影響によって水生生物に有害。 |
| 注意書き | P261 蒸気 / スプレーの吸入を避けること。 P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 P273 環境への放出を避けること。 P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。 P314 気分が悪いときは、医師の診断 / 手当てを受けること。 P501 国の規則に従って内容物 / 容器を廃棄すること。 |

他の危険有害性

この製品はPBTに分類される物質を含んでいる。

3：組成及び成分情報

混合物

| | |
|---|--------|
| トランス-1,2-ジクロロエチレン (trans-1,2-DICHLOROETHYLENE) | 30-60% |
| CAS番号: 156-60-5 | |
| 分類 | |
| 引火性液体 区分2 - H225 急性毒性 区分4 - H332 水生環境有害性 (長期間) 区分3 - H412 | |
| 1,1,1,2,2,3,4,5,5,5デカフルオロペンタン (1,1,1,2,2,3,4,5,5,5-decafluoropentane) | 10-30% |
| CAS番号: 138495-42-8 | |
| 分類 | |
| 水生環境有害性 (長期間) 区分3 - H412 | |
| メタノール (METHANOL) | <1% |
| CAS番号: 67-56-1 | |
| 分類 | |
| 引火性液体 区分2 - H225 急性毒性 区分3 - H301 急性毒性 区分3 - H311 急性毒性 区分3 - H331 眼に対する重篤な刺激性 区分2A - H319 特定標的臓器毒性 (STOT)、単回ばく露区分1 - H370 | |
| ISOBUTYL METHYL KETONE | <1% |
| CAS番号: 108-10-1 | |
| 分類 | |
| 引火性液体 区分2 - H225 急性毒性 区分4 - H332 眼に対する重篤な刺激性 区分2 - H319 特定標的臓器毒性 (STOT)、単回ばく露区分3 - H335 | |

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

| | |
|--|-----|
| ETHYL ACETATE | <1% |
| CAS番号: 141-78-6 | |
| 分類 引火性液体 区分2 - H225 眼に対する重篤な刺激性 区分2 - H319 特定標的臓器毒性 (STOT)、単回ばく露区分3 - H336 | |

全ての危険有害性情報の全文は項目16に示されている。

Composition

4: 応急措置

応急措置の説明

| | |
|--------------------|--|
| 一般情報 | 懸念がある場合には、直ちに医師の手当てを受けること。医療関係者にこの安全データシートを見せること。 |
| 吸入 | 被災者を空気の新鮮な場所に移して暖かく保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させること。気道を開いた状態に維持すること。襟、ネクタイまたはベルトのような体を締め付ける衣類を緩めること。呼吸が困難な場合には適切な訓練を受けた人員が酸素投与を行って被災者を補助してもよい。医師の手当てを受けること。意識のない者は横向きの回復体位に寝かせて呼吸していることを確認すること。 |
| 経口摂取 | 口を水で十分にすすぐこと。気分が悪いときは、医師の診断 / 手当てを受けること。医療関係者の指示がない限り無理に吐かせてはならない。 |
| 皮膚接触 | 水で洗うこと。 |
| 眼接触 | コンタクトレンズがあれば取り外し瞼を大きく広げること。水で洗うこと。何らかの不快感が続く場合には医師の手当てを受けること。 |
| 応急措置をする者の保護 | 応急処置を行う者は救助活動中は常に適切な保護具を着用しなければならない。 |

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

| | |
|-------------|-------------------------------------|
| 一般情報 | 記載されている症状の重症度は濃度および暴露の長さに依存して変化する。 |
| 吸入 | 単回暴露は次の悪影響を引き起こすおそれがある：頭痛。消耗および脱力感。 |
| 経口摂取 | 特定の症状は知られていない。 |
| 皮膚接触 | 特定の症状は知られていない。 |
| 眼接触 | 特定の症状は知られていない。眼をわずかに刺激するおそれがある。 |

必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

医師に対する特別な注意事項 症候に基づいた処置を行うこと。

5: 火災時の措置

消火剤

| | |
|--------------------|--|
| 適切な消火剤 | 製品は可燃性/引火性でない。耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤または水霧で消火すること。周辺火災に適した消火剤を使用すること。 |
| 使ってはならない消火剤 | 火災を広げるので棒状水を消火剤として使用しないこと。 |

化学品から生じる特定の危険有害性

| | |
|-----------------|---|
| 特有の危険有害性 | 過剰な圧力増大が生じるので、容器は加熱すると激しく破裂または爆発することがある。この製品は毒性である。 |
|-----------------|---|

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

有害燃焼副産物 熱分解または燃焼した製品は次の物質を含むおそれがある： 毒性のガスまたは蒸気。

消火を行う者の保護

消火活動中の保護措置

火災ガスまたは蒸気の吸入を避けること。区域から避難すること。ガス、蒸気、フュームおよび煙の吸入を避けるために常に風上から作業すること。閉鎖空間に立ち入る前に換気すること。水スプレーを使用して熱にさらされた容器を冷却すると共にリスクを伴わずに対処可能ならそれらの容器を火災区域から移動させること。炎にさらされた容器は消火後も十分な時間冷却し続けること。漏洩物または流出物に点火していない場合には、水スプレーを使用して蒸気を分散させることにより漏洩を止めている者を保護すること。水生環境への放出を防止すること。封じ込めにより流去水を管理して下水道および水路に流入させないようにすること。水質汚染のリスクが生じた場合には、管轄官庁に通報すること。

消火を行う者を保護するための特別な保護具 陽圧自給式呼吸器 (SCBA) および適切な保護衣を着用すること。消防士の衣類は化学物質に対して基本レベルの保護を提供する。

6：漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

人体に対する注意事項

この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。適切に訓練されていない場合または何らかの人的リスクを伴う場合にはいかなる活動も行ってはならない。流出した物質に触れたりその中に踏み込んだりしないこと。蒸気およびスプレー/ミストの吸入を避けること。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を使用すること。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項

排水管または水路あるいは地表への放出を防止すること。水生環境への放出を防止すること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

浄化方法

この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。直ちに流出物を片付けて廃棄物を安全に廃棄すること。適切に換気すること。小規模流出：漏出物を回収すること。大規模流出：不燃性、吸収性の材料に流出物を吸収させること。汚染された吸収剤は流出した物質と同じ危険有害性を示すおそれがある。回収し適切な廃棄物用容器に入れて確実に密封すること。廃棄物および汚染された物質の入った容器にラベルをつけてできるだけ早くその区域から移すこと。汚染された区域を多量の水で洗い流すこと。流出物の取扱い後は十分洗うこと。環境に対して危険。排水路に流してはならない。廃棄物の廃棄処理については、項目13を参照。

他の項目の参照

他の項目の参照

個人保護具については、項目8を参照。健康危険有害性についての追加情報は、項目11を参照。生態学的危険有害性についての追加情報は、項目12を参照。廃棄物の廃棄処理については、項目13を参照。

7：取扱い及び保管上の注意

安全な取扱いのための予防措置

使用上の予防措置

製造業者から提供される推奨事項を読みこれに従うこと。この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。飲食物、動物用飼料から離して保管する。流出を最小限に抑えるためにすべての包装および容器を慎重に取り扱うこと。使用しないときは容器を厳重に密閉しておくこと。ミストの形成を避けること。水生環境への放出を防止すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。保護具を着用せずに破損した容器を取り扱わないこと。空の容器を再使用しないこと。

職業衛生全般に関する助言

皮膚が汚染された場合は直ちに洗うこと。汚染された衣類を脱ぐこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

混触禁止物質を含む、安全な保管条件

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

| | |
|-----------------|--|
| 保管上の予防措置 | 混触危険物質 (項目10を参照) から遠ざけて保管すること。最初の容器中でのみ保管する。容器を密閉して換気の良い冷所に保管する。容器を立てておくこと。容器が破損しないよう保護すること。 |
| 保管クラス | その他の危険有害性物質の保管。 |
| 特定最終用途 | |
| 特定最終用途 | この製品の意図された使用は項目1で詳しく述べられている。 |

8 : ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

職業ばく露限界値

メタノール (METHANOL)

長時間暴露限界 (8時間TWA) : 200 ppm 260 mg/m³
皮

ISOBUTYL METHYL KETONE

長時間暴露限界 (8時間TWA) : 50 ppm 200 mg/m³

ETHYL ACETATE

長時間暴露限界 (8時間TWA) : 200 ppm 720 mg/m³
皮 = 経皮的に吸収されることがある

Additional Occupational Exposure Limits

ばく露防止

保護具



適切な設備対策

適切な全体換気装置および局所排気装置を設けること。換気システムの定期的な保守と検査が行われていることを確認すること。全体換気装置は空中浮揚不純物に対する労働者の暴露防止に適したものでなければならない。製品または成分の職業暴露限界値がある場合にはこれを遵守すること。

眼 / 顔面の保護

リスク評価によりより高度な保護の必要性が指摘された場合を除き、以下の保護具を着用しなければならない: 顔面に密着する安全眼鏡。

手の保護

推奨される特定の手の保護はない。皮膚に触れないようにする。

その他の皮膚及び身体の保護

反復したまたは長期にわたる皮膚接触を防止するために適切な衣類を着用すること。

衛生措置

使用後および食事、喫煙ならびにトイレの使用前に洗うこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

呼吸器の保護

全ての呼吸用保護具が意図した使用に適していることを確認すること。呼吸マスクが顔面に密着することおよびフィルタが定期的に交換されていることを点検すること。意図した使用に適した吸収缶および防塵機能付き吸収缶を使用しなければならない。意図した使用に適した交換可能な吸収缶を装備したフルフェイス式呼吸用保護具を使用しなければならない。意図した使用に適した交換可能な吸収缶を装備したハーフマスク式およびクォータマスク式の呼吸用保護具を使用しなければならない。

環境ばく露の防止

使用しないときは容器を厳重に密閉しておくこと。換気装置または加工装置からの放出を検査してそれらが環境保護法令の要件に適合していることを確認しなければならない。場合によっては、放出を許容レベルまで低減させるためにはヒュームスクラパー、フィルタまたは加工装置に対する工学的変更が必要になる場合もある。

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

9 : 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

| | |
|----------------|--|
| 外観 | 透明な液体。 |
| 色 | 無色。 |
| 臭い | かすかな臭い。エーテル。 |
| 臭いの閾値 | 情報得られず。 |
| pH | 情報得られず。 |
| 融点 | 情報得られず。 |
| 初留点及び沸騰範囲 | 41°C/106°F @ 101.3 kPa |
| 引火点 | 製品は可燃性/引火性でない。 |
| 蒸発速度 | 情報得られず。 |
| 蒸発係数 | 情報得られず。 |
| 燃焼性 (固体、気体) | 該当しない。 |
| 燃焼又は爆発範囲の上限・下限 | 燃焼/爆発上限界: 14.4 %(V) 燃焼/爆発下限界: 5.0 %(V) |
| その他の燃焼性 | 製品は可燃性/引火性でない。 |
| 蒸気圧 | 37.9 kPa @ 20°C |
| 蒸気密度 | 3.4 |
| 相対密度 | 1.26 g/cc |
| バルク密度 | 情報得られず。 |
| 溶解度 | 0.3 % 水 @ 20°C |
| 分配係数 | 情報得られず。 |
| 自己発火温度 | 情報得られず。 |
| 分解温度 | 情報得られず。 |
| 粘度 | 0.48 cP @ 20°C |
| 爆発特性 | 情報得られず。 |
| 酸化特性 | 知見なし。 |
| 屈折率 | 情報得られず。 |
| 粒径 | 情報得られず。 |
| 分子量 | 該当しない。 |
| 揮発性 | 100% |
| 飽和濃度 | 情報得られず。 |
| 臨界温度 | 情報得られず。 |
| 揮発性有機化合物 | この製品は最大含有量1080g/lのVOCを含んでいる。 |
| UDF Phrase 1 | 製品は可燃性/引火性でない。 |

10 : 安定性及び反応性

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

| | |
|------------|---|
| 反応性 | 詳しくはこのセクションの他のサブセクションを参照のこと。 |
| 安定性 | 標準周囲温度および推奨条件で使用した場合は安定。規定された保管条件下では安定。 |
| 危険有害性反応危険性 | 危険有害性反応の可能性は知られていない。 |
| 避けるべき条件 | 危険有害性状態をもたらす可能性のある条件は知られていない。 |
| 混触危険物質 | 製品と反応して危険有害性状況を生じる可能性のある特定の物質または物質群は無い。 |
| 危険有害な分解生成物 | 推奨事項に従って使用および保管した場合には分解しない。熱分解または燃焼した製品は次の物質を含むおそれがある：毒性のガスまたは蒸気。 |

11：有害性情報

有害性情報

急性毒性 - 経口

備考（経口LD₅₀） 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

急性経口毒性推定値
（ATE）（mg/kg） 62,912.87

急性毒性 - 経皮

備考（経皮LD₅₀） 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

急性経皮毒性推定値
（ATE）（mg/kg） 188,738.6

急性毒性 - 吸入

備考（吸入LC₅₀） 急性毒性 区分4 - H332 吸入すると有害。

急性吸入毒性推定値
（ATE）（蒸気mg/l） 21.41

急性吸入毒性推定値
（ATE）（粉じん/ミスト
mg/l） 314.56

皮膚腐食性 / 刺激性

動物データ 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

呼吸器感作性

呼吸器感作性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

皮膚感作性

皮膚感作性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

生殖細胞変異原性

遺伝毒性 - in vitro 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

発がん性

発がん性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

IARC発がん性

発がんのおそれのある物質/物質群を含む。IARC グループ1 ヒトに対する発がん性が認められる。

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

生殖毒性

生殖毒性 - 生殖能 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

生殖毒性 - 発生 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

特定標的臓器毒性 - 単回ばく露

特定標的臓器毒性 単回暴露後の特定標的臓器毒性には分類されない。

(STOT) - 単回ばく露

特定標的臓器毒性 - 反復ばく露

特定標的臓器毒性 反復暴露後の特定標的臓器毒性物質に分類されない。

(STOT) - 反復ばく露

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

一般情報

記載されている症状の重症度は濃度および暴露の長さ依存して変化する。

吸入

単回暴露は次の悪影響を引き起こすおそれがある：頭痛。消耗および脱力感。

経口摂取

特定の症状は知られていない。

皮膚接触

特定の症状は知られていない。

眼接触

特定の症状は知られていない。

ばく露経路

経口摂取 吸入 皮膚および/または眼との接触

標的臓器

特有の特定標的臓器は知られていない。

成分に関する毒性学的情報

トランス-1,2-ジクロロエチレン (trans-1,2-DICHLOROETHYLENE)

その他の健康影響 製品が発がん性である可能性を示す証拠はない。

1,1,1,2,2,3,4,5,5,5デカフルオロペンタン (1,1,1,2,2,3,4,5,5,5-decafluoropentane)

急性毒性 - 経口

急性経口毒性 (LD₅₀ 5,000.0
mg/kg)

生物種 ラット

急性経口毒性推定値
(ATE) (mg/kg) 5,000.0

急性毒性 - 経皮

急性経皮毒性 (LD₅₀ 5,000.0
mg/kg)

生物種 ラット

急性経皮毒性推定値
(ATE) (mg/kg) 5,000.0

急性毒性 - 吸入

急性吸入毒性 (LC₅₀蒸気 114.0
mg/l)

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

| | |
|-----------------------------|---|
| 生物種 | ラット |
| 急性吸入毒性推定値 (ATE) (蒸気mg/l) | 114.0 |
| <u>皮膚腐食性 / 刺激性</u> | |
| 動物データ | 刺激性でない。ウサギ |
| ヒト皮膚モデル試験 | データの欠如。 |
| 極端なpH | 該当しない。皮膚を腐食しない。 |
| <u>眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性</u> | |
| 眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 | 刺激性でない。ウサギ |
| <u>呼吸器感作性</u> | |
| 呼吸器感作性 | データの欠如。 |
| <u>皮膚感作性</u> | |
| 皮膚感作性 | 感作性でない。 - モルモット: 感作性でない。 |
| <u>生殖細胞変異原性</u> | |
| 遺伝毒性 - in vitro | この物質の変異原性を示す証拠はない。 |
| 遺伝毒性 - in vivo | この物質の変異原性を示す証拠はない。 |
| <u>発がん性</u> | |
| 発がん性 | 公知の発がん物質を一切含まない。 |
| IARC発がん性 | 記載されていない。 |
| <u>生殖毒性</u> | |
| 生殖毒性 - 生殖能 | 動物実験における生殖毒性の証拠はない。 |
| . | |
| 皮膚接触 | 推奨事項に従って使用すれば皮膚刺激は生じない。皮膜の脱脂を引き起こすおそれがあるが刺激性ではない。 |
| 眼接触 | 眼刺激を引き起こすおそれがある。 |
| 急性及び慢性健康有害性 | 製品が発がん性である可能性を示す証拠はない。 |

12: 環境影響情報

成分に関する生態学的情報

トランス-1,2-ジクロロエチレン (trans-1,2-DICHLOROETHYLENE)

生態毒性 水生生物に対する急性毒性は低い。

1,1,1,2,2,3,4,5,5,5デカフルオロペンタン (1,1,1,2,2,3,4,5,5,5-decafluoropentane)

生態毒性 物質が水中で魚やミミズに有害な影響を及ぼすほどの大きさと溶解することは考えにくい。

毒性 水生環境有害性 (長期間) 区分3 - H412 長期継続的影響によって水生生物に有害。

成分に関する生態学的情報

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

トランス-1,2-ジクロロエチレン (trans-1,2-DICHLOROETHYLENE)

急性水生毒性

急性毒性 - 魚類 LC₅₀, 96 hours: 1350 mg/l, 魚類

急性毒性 - 水生無脊椎動物 EC₅₀, 48 hours: 220 mg/l, Daphnia magna (オオミジンコ)

1,1,1,2,2,3,4,5,5,5デカフルオロペンタン (1,1,1,2,2,3,4,5,5,5-decafluoropentane)

急性水生毒性

急性毒性 - 魚類 LC₅₀, 96 hours: 13.9 mg/l, Oncorhynchus mykiss (ニジマス)

急性毒性 - 水生無脊椎動物 LC₅₀, 48 時間: 11.7 mg/l, Daphnia magna (オオミジンコ)

急性毒性 - 水生植物 EC₅₀, 72 hours: >120 mg/l, 藻類

残留性・分解性

残留性・分解性 製品の分解性は未知である。

生体蓄積性

生体蓄積性 生体蓄積性について利用可能なデータ無し。

分配係数

情報得られず。

成分に関する生態学的情報

トランス-1,2-ジクロロエチレン (trans-1,2-DICHLOROETHYLENE)

生体蓄積性 この製品の溶解性は低いため生体蓄積性が重大である可能性は低い。

1,1,1,2,2,3,4,5,5,5デカフルオロペンタン (1,1,1,2,2,3,4,5,5,5-decafluoropentane)

生体蓄積性 この製品の溶解性は低いため生体蓄積性が重大である可能性は低い。

分配係数 Pow: 2.7

土壤中の移動性

移動性 データなし。

成分に関する生態学的情報

トランス-1,2-ジクロロエチレン (trans-1,2-DICHLOROETHYLENE)

移動性 製品の溶解性は低い。

他の有害影響

他の有害影響 知られていない。

13: 廃棄上の注意

廃棄上の注意

一般情報

廃棄物の生成を最小限に抑えるか可能であれば避けなければならない。可能ならば製品を再使用または再利用すること。この物質および容器は安全な方法で廃棄する。廃棄物を取り扱う際には、製品の取り扱いに適用される安全措置を考慮しなければならない。十分に洗浄もしくは水洗いしていない空容器を取り扱う際には注意を払わなければならない。空の容器または内張りには多少の製品残渣が付着していることがあるため危険有害性の可能性がある。

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

廃棄方法

排水路に流してはならない。余剰製品および再利用できない製品は認可を受けた廃棄物処理請負業者を介して廃棄すること。廃棄物、残渣、空の容器、捨てられた作業着および汚染された浄化材料は指定された容器に集め、内容物を示すラベルを貼らなければならない。焼却または埋め立ては再利用が不可能な場合にのみ検討すること。

14: 輸送上の注意

国連番号

国連番号 (IMDG) 1950

国連番号 (ICAO) 1950

品名 (国連輸送名)

品名 (国連輸送名) (IMDG) UN1950 AEROSOLS, NON-FLAMMABLE, 2.2, LIMITED QUANTITY

品名 (国連輸送名) (ICAO) UN1950 AEROSOLS, NON-FLAMMABLE, 2.2, LIMITED QUANTITY

国連分類 (輸送における危険有害性クラス)

IMDGクラス 2.2 LIMITED QUANTITY

ICAOクラス / 区分 2.2 LIMITED QUANTITY

ICAO副次危険性 N/A

容器等級

情報は要求されていない。

IMDG容器等級 N/A

ICAO容器等級 N/A

海洋汚染物質

環境有害物質 / 海洋汚染物質
該当せず。

使用者のための特別予防措置

該当しない。情報は要求されていない。

MARPOL73/78 附属書II及び IBCコードによるばら積み輸送
該当しない。情報は要求されていない。

15: 適用法令

インベントリー

日本 (化審法)
どの成分も記載されておらず免除もされていない。

16: その他の情報

訓練に関する助言 訓練を受けた人員のみがこの物質を使用すること。

改訂日 2019/01/30

改訂版 55

更新日 2019/01/30

SDS番号 AEROSOL - SPR

SPR - HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, AEROSOL

危険有害性情報の全文

H225 引火性の高い液体及び蒸気。
H229 高压容器：熱すると破裂のおそれ。
H301 飲み込むと有毒。
H311 皮膚に接触すると有毒。
H319 強い眼刺激。
H331 吸入すると有毒。
H332 吸入すると有害。
H335 呼吸器への刺激のおそれ。
H336 眠気又はめまいのおそれ。
H370 臓器への障害。
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害。

この情報は明示されている特定の物質のみに関連するものでありこの物質を他の何らかの物質と併用したり何らかのプロセスに使用した場合には有効でない場合があります。上記の情報は、弊社の知識および確信のおよぶ限り、標示されている日付の時点において正確かつ信頼性の高い情報です。しかしながら、その精度、信頼性または完全性に関して一切の保証、補償あるいは表明を行うものではありません。各自の特定用途に対する上記情報の適合性に関して確認を行うことは使用者の責務です。